

科目名	インタープロフェッショナルワーク特講
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	2単位 (30時間) 必修 春
科目の位置付	1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、行動規範を示すことができる 2. 専門分野並びに接近分野（領域）の高度な知識・技術を習得し、科学的、論理的かつ創造的な思考力を身に付けている
科目概要	保健医療福祉の連携・協働は地域包括ケアを行う上で必須になっている。本科目では、欧米圏を中心に発展してきた専門職連携・協働（Inter Professional Work）の歴史や理論を学び、我が国における実践と今後について学ぶ。
到達目標	1. IPW の理論と意義を理解する。 2. 欧米圏での IPW の歴史と発展、理論について理解する。 3. 我が国での IPW の歴史と発展について理解する。 4. 連携・協働を妨げる問題とその解決法について理解する。 5. 我が国における専門職連携・協働の実際と課題について理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1-3回：IPWの意義・IPWを学ぶことについて・IPWの経験 谷哲夫、伊藤信寿、江口晶子、根地嶋誠、川向雅弘、柴本勇</p> <p>第4-6回：IPWにおけるチームワークの形成を円滑にするための理論 外部講師</p> <p>第7-9回：IPE・IPCの概念 IPE・IPCの理論構築 外部講師</p> <p>第10-12回：世界におけるIPE・IPCの歴史と発展 現状のIPE・IPCの課題と展望 外部講師</p> <p>第13回：浜松市における地域包括ケアシステムIPW（多職種連携・協働）の実際 外部講師、谷哲夫</p> <p>第14-15回：博士号取得者として、地域包括ケアシステムにおけるIPWをどのように捉え、その推進にどのような役割を果たすべきか？ 谷哲夫、伊藤信寿、江口晶子、根地嶋誠、川向雅弘、柴本勇</p>

学修方法	講義とディスカッションを組み合わせで行います。				
評価方法	討論への参加 40%、レポート 60% 最終レポートは、京極先生、大島先生、雨宮先生の講義内容と授業でのディスカッションが反映されているかを評価する。				
課題に対するフィードバック	発表時に内容・問題点について個別にコメントし、そのコメントに対する修正がレポートでなされているかをレポートの評価対象とする。				
指定図書	なし				
<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>発売元出版社</b>	<b>価格</b>	<b>ISBN</b>	<b>媒体種別/備考</b>
参考書	『はじめての IP - 連携を学びはじめる人のための IP 入門 - /保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践』大嶋 伸雄、協同医書出版社 『信念対立解明アプローチ入門』京極真、中央法規出版				
<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>発売元出版社</b>	<b>価格</b>	<b>ISBN</b>	<b>媒体種別/備考</b>
事前・事後学修	自分のテーマに関する IPW 関連の研究に注目し、論文を読んでおくようにしてください。ディスカッションを主体とする授業であるため、積極的な参加を求めます。授業の進捗に合わせて適宜事後学修について指示していきます。				
オフィスアワー	谷哲夫：3406 研究室 <a href="mailto:tetsuo-t@seirei.ac.jp">tetsuo-t@seirei.ac.jp</a> 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。				

科目名	インタープロフェッショナルワーク演習
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、行動規範を示すことができる 2. 専門分野並びに接近分野（領域）の高度な知識・技能を習得し、科学的、論理的かつ創造的な思考力を身に付けている 6. 連携・協働においてリーダーシップを発揮して、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる
科目概要	保健医療福祉における連携・協働の実際にある様々な課題を、Inter Professional Work (IPW) の視点から多職種によるグループで討論し、IPW に必要な能力を修得する。
到達目標	1. 日常の業務にある IPW の実践における課題を取り上げることができる。 2. 自らの専門性を踏まえて、多専門職種と IPW の課題について討論できる。 3. IPW 実践の課題について理論を用いて分析し、解決策を検討できる。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ <span style="float: right;">＜担当教員名＞</span></p> <p>第 1-3 回：オリエンテーション・日常の業務にある IPW の実践を共有・IPW 実践に課題のある事例について多職種によるグループ討議 谷哲夫、伊藤信寿、江口晶子、根地嶋誠、川向雅弘、柴本勇</p> <p>第 4-6 回：IPE として他者が連携・協働を学ぶことにつながる事例の作成に向けたグループ討議・作成した事例の発表・課題確認 谷哲夫、伊藤信寿、江口晶子、根地嶋誠、川向雅弘、柴本勇</p> <p>第 7-9 回：IPW 実践の課題（信念対立）について、理論を用いてその解明にむけて問題点を抽出する・課題（信念対立）の提示（最終日にプレゼン） 外部講師、伊藤信寿、宮谷恵、江口晶子、根地嶋誠、川向雅弘、柴本勇</p> <p>第 10-12 回：IPE として他者が連携・協働を学ぶことにつながる事例の作成に向けたグループ討議・作成した事例の発表・課題確認（2 日目の発表に対する指摘事項の再検討と再発表） 谷哲夫、伊藤信寿、江口晶子、根地嶋誠、川向雅弘、柴本勇</p> <p>第 13-15 回：IPW 実践の課題（信念対立）について、理論を用いて解明や解決策についてプレゼンテーションを行う（3 日目に提示された課題） 外部講師、谷哲夫、伊藤信寿、江口晶子、根地嶋誠、川向雅弘、柴本勇</p>

学修方法	ディスカッションを行います。自職場などにおける日常の業務にある IPW 実践をまとめておいてください。				
評価方法	発表・討論への参加 50%、レポート 50%				
課題に対するフィードバック	発表時に内容・問題点について個別にコメントし、そのコメントに対する修正がレポートでなされているかをレポートの評価対象とする。				
指定図書	なし				
<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>発売元出版社</b>	<b>価格</b>	<b>ISBN</b>	<b>媒体種別/備考</b>
参考書	『はじめての IP - 連携を学びはじめる人のための IP 入門 - /保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践』大嶋 伸雄、協同医書出版社 『信念対立解明アプローチ入門』京極真、中央法規出版				
<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>発売元出版社</b>	<b>価格</b>	<b>ISBN</b>	<b>媒体種別/備考</b>
事前・事後学修	自分のテーマに関する IPW 関連の研究に注目し、論文を読んでおくようにしてください。ディスカッションを主体とする授業であるため、積極的な参加を求めます。授業の進捗に合わせて適宜事後学修について指示していきます。				
オフィスアワー	谷哲夫：3406 研究室 <a href="mailto:tetsuo-t@seirei.ac.jp">tetsuo-t@seirei.ac.jp</a> 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。				

科目名	リーダーシップ特講
科目責任者	梶原 理恵
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	2. 専門分野並びに接近分野 (領域) の高度な知識・技能を習得し、科学的、論理的かつ創造的な思考力を身に付けている 6. 連携・協働においてリーダーシップを発揮して、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる
科目概要	組織やチームにおいて活動するにあたって、リーダーとメンバーとの人間関係によってそのパフォーマンスは影響を受ける。とりわけ、リーダーによるリーダーシップとメンバーによるフォロワーシップが機能するかどうかは重要である。本講義では、リーダーシップを中心に、フォロワーシップもふまえて、講義および討議を通じて知識の習得さらには実践への応用力を身につけることを目指します。
到達目標	1. リーダーシップの基礎から応用までの知識の習得 2. フォロワーシップに代表されるリーダーシップに関連する知識の習得 3. リーダーシップを実践するにあたっての知見の涵養
授業計画	<p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">担当教員：梶原理恵</span></p> <p>第1回：科目ガイダンス           イントロダクション/最高のリーダーとは</p> <p>第2回：価値観を明らかにする</p> <p>第3回：手本を示す</p> <p>第4回：規範となる</p> <p>第5回：未来を描く</p> <p>第6回：人々を引き入れる</p> <p>第7回：チャンスを探る</p> <p>第8回：実験しながらリスクをとる</p> <p>第9回：プロセスに挑戦する</p> <p>第10回：協働を育む</p> <p>第11回：力を与える</p> <p>第12回：貢献を認める</p> <p>第13回：価値と勝利を讃える</p> <p>第14回：だれでも素晴らしいリーダーになれる</p> <p>第15回：まとめ</p>

学修方法	事前学修および講義でのプレゼンテーション、ディスカッションを実施します。				
評価方法	授業への積極的な取り組み 80%                      課題レポート 20%				
課題に対するフィードバック	授業プレゼンテーションについては授業内で随時フィードバックを実施します。				
指定図書	ジェームス, M, クーゼス, バリー, Z, ボスナー/金井壽宏監訳/関美和訳 (2012/2021) リーダーシップ・チャレンジ原書版第5版, 海と月社				
<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>発売元出版社</b>	<b>価格</b>	<b>ISBN</b>	<b>媒体種別/備考</b>
参考書	なし				
<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>発売元出版社</b>	<b>価格</b>	<b>ISBN</b>	<b>媒体種別/備考</b>
事前・事後学修	テキストおよび参考書を通じての予習と復習、毎回の授業につき、それぞれ2時間程度。				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接受け付けます。				

科目名	保健科学研究方法特講 I																														
科目責任者	市江 和子																														
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春																														
科目の位置付	(4) 独創的かつ先端的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿って研究を実施し、論文としてまとめ発表し、専門分野・領域の発展に寄与することができる (自立して研究ができる)。																														
科目概要	保健医療福祉の知識基盤を発展させるため、ケアの成果 (アウトカム) を検証する研究方法論及び方法 (デザイン) について知識を深める。また、成果・ケア介入研究 (リサーチ) の妥当性と信頼性を高める方法論について学修する。加えて、院生各自の研究課題・疑問に応じて、概念分析・文献検討で研究方法を構築する専門的能力を養う。																														
到達目標	1. 受講生の研究課題・疑問を説明ができる。 2. 受講生の関心領域の文献検討ができる。 3. 受講生各自の研究課題・疑問を明確にすることができる。																														
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">第1回：ガイダンス・研究計画の根拠</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">市江和子</td> </tr> <tr> <td>第2回：帰納的研究と演繹的研究</td> <td style="text-align: right;">河口てる子</td> </tr> <tr> <td>第3回：文献検討</td> <td style="text-align: right;">酒井昌子</td> </tr> <tr> <td>第4回：文献クリティーク</td> <td style="text-align: right;">酒井昌子</td> </tr> <tr> <td>第5回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法① (質的記述的研究)</td> <td style="text-align: right;">市江和子</td> </tr> <tr> <td>第6回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法② (GTA)</td> <td style="text-align: right;">市江和子</td> </tr> <tr> <td>第7回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法③ (M-GTA)</td> <td style="text-align: right;">市江和子</td> </tr> <tr> <td>第8回：リハビリテーション科学研究を理解し、文献検索を行う</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第9回：リハビリテーション科学研究の文献検討を行う</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第10回：リハビリテーション科学研究の動向について検討する</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第11回：ソーシャルワークにおける地域介入研究</td> <td style="text-align: right;">野田由佳里</td> </tr> <tr> <td>第12回：マイクロ・メゾ・マクロの3レベルと評価方法と介入研究</td> <td style="text-align: right;">野田由佳里</td> </tr> <tr> <td>第14回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)</td> <td style="text-align: right;">市江和子</td> </tr> <tr> <td>第14回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)</td> <td style="text-align: right;">市江和子</td> </tr> <tr> <td>第15回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)</td> <td style="text-align: right;">市江和子</td> </tr> </table>	第1回：ガイダンス・研究計画の根拠	市江和子	第2回：帰納的研究と演繹的研究	河口てる子	第3回：文献検討	酒井昌子	第4回：文献クリティーク	酒井昌子	第5回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法① (質的記述的研究)	市江和子	第6回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法② (GTA)	市江和子	第7回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法③ (M-GTA)	市江和子	第8回：リハビリテーション科学研究を理解し、文献検索を行う	矢倉千昭	第9回：リハビリテーション科学研究の文献検討を行う	矢倉千昭	第10回：リハビリテーション科学研究の動向について検討する	矢倉千昭	第11回：ソーシャルワークにおける地域介入研究	野田由佳里	第12回：マイクロ・メゾ・マクロの3レベルと評価方法と介入研究	野田由佳里	第14回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)	市江和子	第14回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)	市江和子	第15回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)	市江和子
第1回：ガイダンス・研究計画の根拠	市江和子																														
第2回：帰納的研究と演繹的研究	河口てる子																														
第3回：文献検討	酒井昌子																														
第4回：文献クリティーク	酒井昌子																														
第5回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法① (質的記述的研究)	市江和子																														
第6回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法② (GTA)	市江和子																														
第7回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法③ (M-GTA)	市江和子																														
第8回：リハビリテーション科学研究を理解し、文献検索を行う	矢倉千昭																														
第9回：リハビリテーション科学研究の文献検討を行う	矢倉千昭																														
第10回：リハビリテーション科学研究の動向について検討する	矢倉千昭																														
第11回：ソーシャルワークにおける地域介入研究	野田由佳里																														
第12回：マイクロ・メゾ・マクロの3レベルと評価方法と介入研究	野田由佳里																														
第14回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)	市江和子																														
第14回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)	市江和子																														
第15回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)	市江和子																														

学修方法	セミナー形式で、そのセッションの中心課題についての学生のプレゼンテーション・討論を中心に行う				
評価方法	プレゼンテーション 30%、クラス貢献度 20%、最終発表・レポート 50%				
課題に対するフィードバック	クラス内での発表担当院生のプレゼンテーションの情報、教員および他の院生との討議で、フィードバックし、理解を深める。				
指定図書	特にない。				
<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>発売元出版社</b>	<b>価格</b>	<b>ISBN</b>	<b>媒体種別/備考</b>
参考書	特にない。				
<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>発売元出版社</b>	<b>価格</b>	<b>ISBN</b>	<b>媒体種別/備考</b>
事前・事後学修	随時指定				
オフィスアワー	<p>市江和子：看護学研究科 1712 研究室 (kazuko-i@seirie.ac.jp)  時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。</p> <p>河口てる子：看護学研究科 1209 研究室 (teruko-k@seirei.ac.jp)  時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。</p> <p>酒井昌子：看護学研究科 3410 研究室 (masako-s@seirei.ac.jp)  時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。</p> <p>矢倉千昭：リハビリテーション科学研究科 3504 研究室 (矢倉研究室)  時間：木曜日の 6 時限目 (18 時 00 分～19 時 30 分)  上記以外でもメール (chiaki-y@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください</p> <p>野田由佳里：社会福祉学研究科 2706 研究室 (野田研究室)  時間：金曜日の 7 時限目 (18 時 00 分～19 時 30 分)  上記以外でもメール (yukari-n@seirei.ac.jp) での対応可能です。</p>				

科目名	保健科学研究方法特講Ⅱ
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	4. 独創的かつ先端的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿って研究を実施し、論文としてまとめ発表し、専門分野・領域の発展に寄与することができる (自立して研究ができる)
科目概要	複雑な保健科学現象を明らかにし、説明するための一連の手法を教授する。多様な保健科学現象を記述するために必要とされるデータの収集方法、質問紙尺度の作成法、その信頼性、妥当性の検証法、さらには、メタ分析、生命表分析についてもその概略を解説する。データの解析方法として、単純集計、統計学的検定、さらに応用的手法として主成分分析、因子分析、重回帰分析、多重ロジスティックモデル、構造方程式モデル (パス解析、共分散構造分析)、比例ハザードモデル、といった多変量データ解析の方法と得られた結果の見方と最新の動向について紹介する。さらに、提供するさまざまな事例 (生活習慣尺度、新老人の生活習慣と健康状態の関連) に関するデータ、あるいは自分で収集したデータを用いて、学生自らが分析し、レポートの作成、及び発表会を行う。第1~4回はSPSSの使い方を含め、統計の基礎についての講義・演習を行う。
到達目標	1. 保健科学的研究方法についての以下の一連のプロセスを学ぶ。 ①データの収集法 ②収集したデータの特徴を記述する方法(記述統計学) ③標本データから母集団についての推測の方法(推測統計学)と検定方法(統計学的検定) ④保健科学的研究法としての、多変量の関連分析法(多変量解析)の概要と重要性 ⑤統計的分析結果の解釈法 2. 文献の批判的読み方(特に統計的手法に焦点を絞る)について学ぶ。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス、統計学の基礎① (記述統計学) 分布、平均、標準偏差、その他の代表値 第2回：統計学の基礎② (推測統計学) 検定、一元配置分散分析、多重比較、多元配置分散分析 第3回：統計学の基礎③ 2変量の関係(相関係数、単回帰分析) 第4回：統計学の基礎④ ノンパラメトリックな解析 第5回：研究計画 必要な標本数、効果量 第6回：多変量解析① 重回帰分析、判別分析 第7回：多変量解析② 多重ロジスティック回帰分析 第8回：多変量解析③ 主成分分析 第9回：多変量解析④ 因子分析と尺度構成 第10回：多変量解析⑤ 尺度構成、その他の解析法 第11回：多変量解析⑥ 構造方程式モデル パス解析、確認的因子分析、共分散構造分析 第12回：多変量解析⑦ 生存時間データ解析 生命表解析、カプランマイヤー法、比例ハザードモデル 第13回：データ収集方法 郵送法、集団記入法、配布回収法、その他 第14回：テスト・測定の妥当性と信頼性 内容妥当性、構成概念妥当性、基準関連妥当性、信頼性係数 第15回：演習・発表・質疑応答、まとめ</p> <p>受講者の研究内容・希望に応じて内容を変更する場合があります。また、第5回~14回の順序については、受講者の都合に応じて変更する場合があります。 第1回、第13~15回は西川と河口が共同で、残りは西川が担当します。講義内容の順序により変更になる可能性があります。</p>

学修方法	講義と演習を併用して行います。 遠隔授業の予定はありません。				
評価方法	出席状況・授業態度(30%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(30%)				
課題に対するフィードバック	発表時に内容・問題点について個別にコメントし、そのコメントに対する対応がレポートでなされているかを評価対象とする。				
指定図書					
<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>発売元出版社</b>	<b>価格</b>	<b>ISBN</b>	<b>媒体種別/備考</b>
【改訂新版】SPSSによる統計データ解析 医学・看護学・生物学、心理学の例題による統計学入門	柳井晴夫/編著 緒方裕光/編著	現代数学社	3000	9784768705285	冊子版
参考書	なし				
<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>発売元出版社</b>	<b>価格</b>	<b>ISBN</b>	<b>媒体種別/備考</b>
事前・事後学修	初回までにSPSSの使い方を予習しておくこと(3~4時間)。 事前学習：次回の内容について参考書でイメージをつかんでおいて下さい(1時間程度)。 事後学修：前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望まれます。各人の必要に応じて学修してください。事前学習に比べ事後学習が重要となります。目安の時間は各回約60分(30~90分)です。				
オフィスアワー	西川浩昭(1620研究室) E-mail: hiroaki-ni@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。				

科目名	保健科学英語特講				
科目責任者	柴本 勇				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋				
科目の位置付	7. 海外の専門職者、研究者や学生と交流し、グローバルリーダーとしての活躍を志向できる				
科目概要	保健科学に関連する英語文献を読みながら、医療系論文の概要と特徴を学び、英語論文を書く基礎を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の論理構造や特徴を日本語と比較しながら理解する。</li> <li>2. 英語論文の基本的英語表現やフォーマットなどに慣れる。</li> <li>3. 自分の研究のアブストラクトを書く。</li> <li>4. 聖隷国際研究コンファレンスでディスカッションを英語で行う。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;柴本勇、藤本礼尚</p> <p>第 1 回 : Guidance : 研究内容を日本語でまとめてくること 柴本 勇</p> <p>第 2 回 : Difference between English and Japanese 柴本 勇</p> <p>第 3 回 : Difference between English and Japanese 柴本 勇</p> <p>第 4 回 : Review of Medical Terms 柴本 勇</p> <p>第 5 回 : Review of Medical Terms 柴本 勇</p> <p>第 6 回 : Lectures on Outlines of Medical Papers 柴本 勇</p> <p>第 7 回 : Reading Papers and APA 柴本 勇</p> <p>第 8 回 : Reading Abstracts 柴本 勇</p> <p>第 9 回 : Reading Papers 柴本 勇</p> <p>第 10 回 : Reading Papers 柴本 勇</p> <p>第 11 回 : Writing Exercises 柴本 勇</p> <p>第 12 回 : Writing Exercises 柴本 勇</p> <p>第 13 回 : Writing Abstracts 藤本礼尚</p> <p>第 14 回 : Writing Abstracts 藤本礼尚</p> <p>第 15 回 : Summary 柴本 勇</p> <p>※授業内容は変更の可能性があります。  ※遠隔授業を行う場合があります。</p>				
学修方法	講義、演習、発表 ※教授することよりも、主体的学修とディスカッションを重視します。				
評価方法	授業参加活動 40%、論文読解発表、abstract 作成などの評価 40%、国際学会でのディスカッション 20%				
課題に対するフィードバック	論文読解発表へのコメント、abstract へのコメント				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	なし				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	自身の研究内容について、まとめる・抄録を作成する（日本語・英語）等の事前学修(課題)があります。また、英語文献の読解発表のための準備等の事前学修が必要です。事後学修として自身が作成した抄録等の手直し等を行います。				
オフィスアワー	柴本 勇 所属研究科：リハビリテーション科学研究科 言語聴覚学分野 研究室：3408 研究室 水曜日：17：00～18：00 上記以外でもメール（isamu-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				